

令和 8 年度
愛媛県立東予総合高等学校
アグリデザイン科
シラバス

令和8年度「シラバス」

令和8年度「シラバス」

教 科	公民	科 目	公共			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教 科 書 副教材等	高等学校 改訂版 新公共（第一学習社）		
学習目標		広い視野に立って、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、人間としての在り方・生き方について考える基礎的な力を養い、良識ある公民としての必要な能力を養うことを目指す。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 編 公共の扉 1 公共的な空間を作る私たち 2 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 3 公共的な空間における基本原理			○公共的な空間を他者と共有する社会の一員としての自覚を深め、自らの生き方を主体的に選択できる。 ○先人の取組や知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ○人間としての尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。			
2	2 編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 1 法的な主体となる私たち 2 政治的な主体となる私たち 3 経済的な主体となる私たち			○憲法の下、適正な手続きにより、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ○よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解する。 ○公正、自由な経済活動により、資源の効率的な配分が図られることや、市場経済システムの機能、国民福祉の向上の役割を政府が担うこと、経済活動と個人の尊厳の両立が必要であることを理解する。			
3	3 編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 1 ケーススタディ			○持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担うことができる。 ○公共の精神を持った自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動ができる。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。					
思考・判断・表現		・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。					
主体的に学習に取り組む態度		・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。					
評価方法	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」、「長期休業中の課題の内容」により評価します。また、学年の成績は各学期の成績を相加平均し、5段階法でも評価をします。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 「公共的な空間」や「公共の精神」など、一人一人が社会で生活し、よりよい社会を形成していく上で認識すべき事柄について考察し、理解を深める学習です。現代社会の諸課題についての問題意識と理解、解決に向けた他との協働した活動が大切になることから、物事を多角的・多面的に考察し、判断するとともに、適切に表現できる力を身に付けよう。							

教 科	数 学		科 目	数学Ⅰ		単位数	3
学 科	農業・工業・家庭		学 年	1	教 科 書 副教材等	高校数学Ⅰ改訂版（実教出版） 高校数学Ⅰ専用スタディノート	
学習目標		数と式、2次関数、三角比、集合と論証及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 数と式 1節 整式 2節 実数 3節 方程式と不等式			○数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式及び2次不等式についての理解を深め、それらを活用できるようになる。			
	第2章 2次関数 1節 関数とグラフ			○2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識する			
2	2節 2次関数の値の変化			○2次関数を具体的な事象の考察や、2次不等式を解くことなどに活用できるようになる。			
	第3章 三角比 1節 三角比 2節 三角比の応用			○直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようになる。			
3	第4章 集合と論証 1節 集合と論証			○集合に関する基本的な用語・記号について学習する。			
	第5章 データの分析 1節 データの分析			○統計に関する用語の意味や扱いについて学習し、さまざまな資料を収集、整理しながら、平均値、中央値、最頻値、四分位偏差、分散、標準偏差について学習する。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・数学Ⅰにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる。					
思考・判断・表現		・数や式を適切に変形する力や図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、表や式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象から設定した問題について、適切な手法で分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けることができる。					
主体的に学習に取り組む態度		・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりすることができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。					
評価方法	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に書き、必ず提出期限を守り提出しましょう。 ○ 授業中は先生の指示（「聞きましょう」「書きましょう」「話し合いましょう」など）をしっかりと聞き、指示されたとおりの活動を行い、授業に積極的に参加してください。 ○ わからない内容がある場合は、遠慮しないで積極的に質問してください。							

教 科	理科	科 目	科学と人間生活			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教 科 書 副教材等	高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社） ネオパルノート 科学と人間生活（第一学習社）		
学習目標		- 基本的な概念や原理・法則を理解し、自然の事物・事象についての観察・実験を通して、自然に対する関心や探究心を高める。 - 現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活との関わりについて考察し、環境問題などへの理解を深める。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	序章 科学技術の発展 第1章 物質の科学 1 材料とその利用			○情報伝達技術、エネルギー資源の活用と交通手段、医療技術の発展の歴史を例に、科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。 ○身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について理解する。			
2	第2章 生命の科学 1 ヒトの生命現象 第3章 熱や光の科学 1 光の性質とその利用			○遺伝子やDNAのはたらき、免疫機能について理解する。 ○ヒトの視覚のはたらきと情報伝達のしくみを学ぶ。 ○光は波の一種であることを理解する。 ○電磁波が様々な領域で利用されていることを学び、情報通信や医療の分野での応用事例を理解する。			
3	第4章 地球や宇宙の科学 1 自然景観と自然災害			○身のまわりにある景観に関心をもち、日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解する。 ○日本列島のさまざまな景観は、大地が変動するはたらきと、大気や河川、海水などのはたらきによって形成されたものであることを考察する。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関連について基本的な概念や原理法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
思考・判断・表現		・自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。					
主体的に学習に取り組む態度		・自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
評価方法	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・ワーク・レポート等）」、「小テスト等」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の総合成績とし、A～Cの3段階でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 授業への参加態度は、社会に出て仕事をするときの態度と同じである。授業に集中しましょう。 ○ 実験や実習の際は、興味を持って積極的に参加しましょう。 ○ 実験操作において、危険を伴うことがあるので、特に先生の指示に耳を傾けましょう。 ○ 課題については、提出時期を指示するので、期限内に確実に提出しましょう。 ○ わからない内容があるときは、そのままにせず、積極的に質問しましょう。							

教 科	保健体育		科 目	体育		単位数	2
学 科	農業・工業・家庭・総合		学 年	1	教科書 副教材等	新高等保健体育 改訂版（大修館書店）	
学習目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 オリエンテーション 2 体づくり運動 3 球技① ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール 4 体育理論			○「体育」の学習についての意義や内容、評価の方法を理解する。 ○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解する。 ○自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 ○フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解することができるようにする。			
2	1 体づくり運動 2 球技② ・ソフトボール ・バレーボール ・ダンス 3 陸上競技(長距離走) 4 体育理論			○自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ○ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。 ○ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ○ダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 ○長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。			
3	1 体づくり運動 2 球技③ ・テニス ・バドミントン ・卓球 3 体育理論			○手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、実生活に役立てることができるようにする。 ○ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 ○作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について自主的に取り組むことができるようにする。			
評価の観点		内 容					
知識・技能 (知識・技術)		・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。					
思考・判断・表現		・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。					
主体的に学習に取り組む態度		・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。					
評価方法	学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「スキルテストや小テスト」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解しよう。 ○ 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○ 各運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。							

教 科	保健体育	科 目	保健			単位数	1		
学 科	農業・工業・家庭・総合	学 年	1	教 科 書 副教材等	新高等保健体育改訂版（大修館書店） 新高等保健ノート（大修館書店）				
学習目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。							
学期	学習内容			学習のねらい					
1	第1単元 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考え方と成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 4 健康に関する意思決定・行動選択 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防			○健康指標や疾病構造の変化から、日本の健康課題を理解し、健康水準や疾病傾向と社会との関わりを理解する。 ○健康の構成要素や健康にかかわる要因を理解する。 ○ヘルスプロモーションの考え方や健康を保持増進する方法を理解する。 ○健康を保持増進するための適切な意思決定・行動選択とは何かを考える。 ○感染症の種類や発生要因、感染症に関わる現状を理解する。 ○感染症予防の三原則と予防のための個人や社会の取組を理解する。 ○性感染症、エイズの現状と課題、予防に必要な個人と社会の取組を理解する。					
	2	8 生活習慣病の予防と回復 9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康 14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応			○生活習慣病のリスク因子と予防や回復のために必要な取組を理解する。 ○身体活動、運動と健康の関係や継続的に必要な個人や社会の取組を理解する。 ○食事と健康の関係を理解し、食生活指針を実践できる力を養う。 ○休養、睡眠と健康の関係を確保に必要な個人と社会の取組について理解する。 ○がんの種類を理解し、予防や回復のための取組について理解する。 ○喫煙による健康への影響と健康被害の防止に必要な対策について理解する。 ○飲酒による健康への影響と健康被害の防止に必要な対策について理解する。 ○薬物乱用による健康および社会への影響について理解する。 ○代表的な精神疾患の特徴や症状と発症、回復のポイントを理解する。 ○精神疾患の予防や発見、セルフケアについて考え、取組の重要性を理解する。				
		3	第2単元 安全な社会生活 18 事故の現状と発生要因 19 交通事故防止の取組 20 安全な社会の形成 21 応急手当の意義と救急医療体制 22 日常的な応急手当 23 心肺蘇生法実習			○事故が起こる要因を理解し、現状について考える。 ○交通事故防止には個人だけでなく社会的な取組も重要であると理解する。 ○安全な社会を作るために必要な個人的取組や環境整備について考える。 ○応急手当の意義と救急医療体制の現状を理解し、適切な利用法を身に付ける。 ○けがの基本的な応急手当の方法と熱中症の予防、適切な対応を身に付ける。 ○心肺蘇生法やAEDを用いて実習を行い、知識と実践力を身に付ける。			
			評価の観点		内 容				
			知識・技能		・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。				
			思考・判断・表現		・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。				
			主体的に学習に取り組む態度		・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれぞれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む学習に主体的に取り組もうとしている。				
評価方法			学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。主に「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物・課題（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト」、「定期考査」等により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項									
○ 健康・安全に関する話題を身近なものとして捉え、学習した内容を自分自身の生活とを結び付け生かせるようにしましょう。									
○ 授業の50分間を大切に、積極的に取り組みましょう。									
○ 課題は必ずやりましょう。ていねいに取り組み、提出期限は守りましょう。									

教 科	芸術	科 目	音楽Ⅰ			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭・総合	学 年	1	教科書 副教材等	MOUSA1（教育芸術社）		
学習目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指す。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	・歌唱 校歌、日本歌曲、外国語の曲など ・器楽（ドラム） ・鑑賞 カンツォーネについて			○歌唱活動に関心を持ち、音楽表現を工夫する。 ○歌詞の内容と曲想を感受しながら歌唱する。 ○基本的な奏法を身に付け、リズムパターンを正確に演奏する。 ○即興的な奏法を身に付ける。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 ○各曲の音楽的特徴を理解し、関心を持って鑑賞する。			
2	・合唱 講座内及び校内文化祭で発表 ・器楽（ギター） ・鑑賞 西洋音楽史（中世、バロック、古典派） 舞台芸術（歌劇「カルメン」）			○合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容や曲想を生かして、声部の役割を理解し、全体の響きに調和させて、表現を工夫して合唱する。 ○ギターの音色や奏法を身に付け、曲想に合った音楽表現をする。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 ○オペラの特徴を理解し、関心を持って鑑賞する。			
3	・創作 音階、音楽を形づくっている要素の働きや構成 ・器楽（三線） ・鑑賞 西洋音楽史（ロマン派、近・現代）			○音階の特徴を生かして、イメージを持って音楽を作る。 ○三線の基本的な奏法を身に付け、曲想にあった音楽表現を工夫する。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。					
思考・判断・表現		・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。					
主体的に学習に取り組む態度		・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。					
評価方法	3観点の達成度を、「実技テスト」「授業への取組」「確認小テスト」「提出物」等を基に総合的に評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 音楽と生活との関わりに関心を持つとともに、思いや意図を持って表現活動や鑑賞活動を行いましょう。 ○ 様々な活動を通して、自己表現する喜びや楽しさ、仲間とともに活動する喜びを味わい、音や音楽に興味・関心を持ちましょう。 ○ 鑑賞では、楽曲の特徴や演奏の良さや美しさを味わって聴きましょう。							

教 科	芸術	科 目	美術 I			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭・総合	学 年	1	教 科 書 副教材等	美術 I（光村図書）		
学習目標		1 美術表現のための基礎技法を習得し、自然観察や自己の内面を見つめる活動をとおして、創造的な表現力を養う。 2 ICTを活用した活動をとおして、制作物に対する権利を尊重し、情報の分析を自己の表現に活用できる技能と表現力を伸長させる。 3 美術の学びをとおして多様な価値観に触れ、社会や生活に関連づけ主体的に生かす態度を養う。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	【オリエンテーション】 1 【共通】美術の扉 カリキュラム・プロジェクト 2 【デザイン】【絵画】【鑑賞】詩画 ラインと線の反復練習 想像した世界を描く 伝えるデザイン			○授業の進め方、美術 I 学習の目標を理解する。 ○筆を使った精緻な技術の習熟を通して、自己の意図を正確に画面に定着させる技能を身に付ける。 ○詩画制作を通して、自己を肯定し支えてくれる言葉から表現方法を工夫して多くの人に伝わるように仕上げる。			
2	3 【デザイン】【映像メディア表現】【鑑賞】 スクールキャラクターをつくる アニメーションをつくる 4 【絵画】【彫刻】【鑑賞】 身近なものを描く 木製の植物レリーフ			○学校について情報収集し、情報をもとに多くの人の共感を得るキャラクターを創意工夫する。 ○ストップモーションアニメーションの仕組みを理解する。 ○作品について適切なプレゼンテーションを行い、多くの人の共感を得る作品の分析をとおして社会におけるデザインの役割について理解を深める。 ○身近にある植物を見つめ直しその形や色彩の変化に気づき、生命観を描写する技能を習得する。 ○平面から半立体へ再構成する過程を理解し空間表現力を養う。 ○木彫技法を理解し材料や道具を効果的に使い表現に生かす。			
3	5 【映像メディア表現】【鑑賞】 ポートフォリオの作成 作品の撮影 【まとめ】これからの生活と美術			○作品意図が伝わる撮影表現を学び、デジタルポートフォリオとして構成する力を養う。 ○ICTツールを活用して作品公開し、相互鑑賞を通じて多様な価値観に触れ自己の表現を客観的に捉える鑑賞力を身に付ける。 ○美術の学習を社会や生活に主体的に活用することを理解する。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。					
思考・判断・表現		・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。					
主体的に学習に取り組む態度		・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。					
評価方法	3 観点の達成度を、「完成した作品」「授業への取組」「グループワークでの主体性」「制作の記録」「鑑賞シート」「提出物」等を基に総合的に評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 忘れ物をしない。準備や片付けを丁寧に行う。提出物は必ず期限を守って提出すること。 ○ 丁寧に、こつこつと手を動かし続ければ、必ず作品は良くなります。もうひと手間加えてみましょう。 ○ 作品制作と鑑賞を通して、感じ取る力、表現する力が身に付きます。							

令和8年度「シラバス」

- 授業中は学習に集中し、グループワーク中は積極的に自分の意見を出しましょう。授業で身に付けた知識や技術を定着させ、自立につなげるため、また、家族の一員として家事を行い、生活の改善・充実に努めましょう。
- 実践力を養うために夏季休業中の課題としてホームプロジェクトを行っています。ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動に積極的に取り組みましょう。
- 実習に主体的に取り組ましましょう。また、火気、用具、材料などの取り扱いに注意をして、事故がないように気を付けましょう。

教 科	農 業	科 目	農 業 と 環 境			単位数	3
学 科	アグリデザイン	学 年	1	教 科 書 副教材等	農 業 と 環 境 （実教出版）		
学習目標		1 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 農業と環境を学ぶ 1節 農業学習とは何か 2節 農業と環境の学び方 3節 学校農業クラブ活動 第2章 私たちの暮らしと農業・農村 1節 人間と植物・動物とのかかわり 2節 農業と食料供給 3節 農業・農村の役割 4節 これからの社会と農業・農村	○農業や環境は人間生活の影響を受け、相互に影響し合う関係にあることを理解するとともに、農業の学び方（プロジェクト学習法）に関心を持ち、実践する意欲と態度を身に付ける。 ○学校農業クラブ活動の目標や組織、活動の内容を理解し、取り組む意欲と態度を養う。 ○人間と他の生物との関係、農業の社会的な役割と環境・暮らしとの関係について関心を持ち、探究しようとする意欲と態度を身に付ける。 ○食と農業、環境と農業、生活に関する基礎的な知識を身に付け、農業の社会的な役割と環境・暮らしとの関係について理解できる。 ○食と農業の動向と課題に関する基礎的な知識を身に付け、農業の社会的な役割・環境・暮らしとの関係を理解できる。					
2	第3章 栽培と飼育の基礎 1節 作物の特性と栽培のしくみ 2節 作物をとりまく環境とその管理	○作物や家畜の特性や管理及び生育に影響を及ぼす環境要因について科学的に捉え、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付ける。 ○作物の生育環境を多面的・科学的に考察し、課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できる。					
3	第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト 1節 農業と環境のプロジェクトの実際 2節 ダイズの栽培と利用 3節 トマトの栽培と利用 4節 ガーデニングの方法と利用	○農業と環境に関するプロジェクト学習の意義及び方法と進め方を理解できる。 ○作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。					
評価の観点		内 容					
知識・技術		・農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 また、農業と環境に関するプロジェクト学習の意義及び進め方を理解している。					
思考・判断・表現		・農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 ・作物を取り巻く環境とその管理について多面的・科学的に考察し、想定される諸課題について整理し、解決に向けて創造的に解決することができる。					
主体的に学習に取り組む態度		・農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
評価方法	学習の状況は、「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、主に「出席の状況」「授業や実習中の態度や取り組む姿勢」「提出物（ノート・プリント・レポート）」「実技テスト」「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均の評点と、5段階評定で評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 定期考査は授業や実習の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に記入し、必ず提出期限を守りましょう。 ○ 授業中は先生の指示（「聞きましょう」「書きましょう」「話し合いましょう」「実演しましょう」など）をしっかりと聞き、指示されたとおりの活動を行い、授業に積極的に参加してください。 ○ 分からない内容がある場合は、遠慮しないで積極的に質問してください。							

令和8年度「シラバス」

教 科	農 業	科 目	農 業 と 情 報			単位数	2
学 科	アグリデザイン	学 年	1	教 科 書 副教材等	農 業 と 情 報（実教出版）		
学習目標		1 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付ける。 3 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 私たちの生活と農業の情報化 1 情報とメディア 2 情報社会とモラル 3 農業を支える情報 第2章 社会を支えるコンピュータ 1 コンピュータのしくみ 2 データや情報の表現 3 情報通信ネットワーク 4 インターネットのしくみ 5 情報セキュリティ			○データと情報、情報社会の発展について理解し、情報化社会の光と影について考えるとともに、SNS の使い方や、個人情報の取り扱い方、モラルについて考えて活用できるようになる。 ○農業の情報化の発展とデータ収集の大切さについて理解する。 ○コンピュータのしくみ、コンピュータで取り扱う情報の種類と表現について理解できるようになる。 ○データや情報の種類、情報通信ネットワークの仕組みと特徴、インターネットの概要と検索方法について理解するとともに、電子メールを適切に活用できるようになる。			
2	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書の作成と表現、データの集計 3 プレゼンテーション 第4章 スマート農業への展望 1 スマート農業のめざす将来 2 システム開発と設計 3 人工知能			○様々なアプリケーションソフトウェアの演習を通して、実際の情報処理の過程を理解するとともに、自分で活用できるように基本的な技能を習得する。また、問題解決の過程やアイデアや気付きを引き出す思考技術を身に付ける。 ○スマート農業や AI などの計測・制御・通信の仕組み、データベースによる情報蓄積や管理の概念、モデル化やシミュレーションの方法や考え方などを理解できるようになる。 ○人工知能の農業における利用例について理解できるようになる。			
3	第5章 農業情報の分析と活用 1 農業情報の収集と分析 2 農業生産や経営情報の分析と活用 第6章 農業学習と情報活用 1 農業学習とプロジェクト学習 2 プロジェクト発表と情報発信 3 データの視覚化と分析			○農業情報や環境情報に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技能を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現できるようになる。 ○農業学習やプロジェクト学習に関する情報処理について各段階での記録・整理・分析・発信について理解し、その利用について適切に選択し活用できるようになる。			
評価の観点		内 容					
知識・技術		・学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。					
思考・判断・表現		・農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観を持って思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。					
主体的に学習に取り組む態度		・農業情報を活用した事例を基に、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心を持ちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
評価方法	学習の状況は、「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、主に「出席の状況」「授業や演習中の態度や取り組む姿勢」「提出物（ノート・プリント・レポート）」「実技テスト」「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均の評点と、5段階評定で評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に記入し、必ず提出期限を守りましょう。 ○ 授業中は先生の指示（「聞きましょう」「書きましょう」「話し合いましょう」「実演しましょう」など）をしっかりと聞き、指示されたとおりの活動を行い、授業に積極的に参加してください。 ○ 分からない内容がある場合は、遠慮しないで積極的に質問してください。							